

授業科目 (ナンバリング)	分析化学演習 (N4C204)			担当教員	大庭 義史・高井 伸彦・中村 沙織		
展開方法	演習	単位数	0.5 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
「分析化学 I」(1年・前期)で修得した内容について、演習形式で復習し、分析化学に関連する知識の定着を目標とする。また、同時期に開講される「分析化学・放射線化学実習」の内容についても、演習形式による知識の定着を目標とする。							①②③④⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 各種化学平衡について説明できる。 (2) 重量分析の原理及び操作法を説明できる。 (3) 分析に用いる器具を正しく使用できる。 (4) 分析法のバリデーションについて説明できる。 (5) 測定値を適切に取り扱い、適切な式を用いて、pH や医薬品の定量等のための計算を行うことができる。 (6) 液体クロマトグラフィーの特徴を説明できる。 (7) 紫外可視吸光光度法の原理を説明できる。				確認試験 (1) 確認試験 (2)	45% 45%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	与えられた問題に対して協働して取り組むことができる。				授業態度・授業への参加度	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
確認試験 (45%×2回)と授業態度 (10%)により評価する。 確認試験は、CBT 形式あるいは国家試験必須・理論問題レベルで、一部記述を含む。講義中に出題される演習問題、練習問題等の結果は評価には含まない。 ポートフォリオで、講義内容、配布問題、質問への回答等のフィードバックを行うので確認すること。							
授業の概要							
別途配布するプリントに沿って演習を進める。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：「パートナー分析化学 I」改訂第3版 南江堂（「分析化学 I」(1年後期)で使用したもの） 参考書：「スタンダード薬学シリーズ II 2 物理系薬学 II. 化学物質の分析」 東京化学同人 「スタンダード薬学シリーズ II 2 物理系薬学 III. 機器分析・構造決定」 東京化学同人 指定図書：上記参考書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
・「分析化学 I」の内容について復習しておくこと。 ・教科書（「パートナー分析化学 I」改訂第3版 南江堂）の指定したページを読んで予習する。 ・講義中に出題される演習問題、練習問題等は、次回講義までに解いておくこと。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	酸・塩基平衡 1	酸塩基平衡の概念、pH 及び解離定数 (中村)	予習：p35-51 復習：酸塩基問題を解く	176-8/222
2	酸・塩基平衡 2	pH の測定、分子形とイオン形 (中村)	予習：p50-7、62-5、復習：HH 式の問題を解く	176-8
3	酸・塩基平衡 3	緩衝作用と緩衝液 (大庭)	予習：p57-62、復習：緩衝液の問題を解く	179/ADV30
4	錯体平衡	錯体・キレート生成平衡 (大庭)	予習：99-108 復習：配布問題を解く	180/277-8/ADV65-6
5	沈澱平衡	沈澱平衡 (大庭)	予習：129-44 復習：配布問題を解く	181
6	確認試験 1	第 1 回～第 5 回演習内容についての確認試験		176-82/222/277-8/ ADV30/ADV65-6
7	分析の基礎 1	分析に用いる器具の正しい使い方 (高井)	復習：器具の扱い方に関する問題を解く	173
8	分析の基礎 2	測定値の取扱い方、分析法のバリデーション (中村)	予習：p15-22 復習：測定値の扱いに関する問題を解く	174-5
9	酸化還元滴定	ヨウ素滴定による局方医薬品への適用例 (大庭)	予習：p176-83 復習：関連問題を解く	189-90
10	紫外可視吸光光度法	紫外可視吸光度測定法の原理と応用 (高井)	復習：紫外可視吸光光度法の問題を解く	193/198
11	液体クロマトグラフィー	クロマトグラフィーの分離機構、検出器、試料の定性・定量 (中村)	復習：LC に関する問題を解く	205/207/209
12	確認試験 2	第 7 回～第 11 回演習内容についての確認試験		173-5/183/193/198 /205/207/209

注) 上記の第 1 回～第 5 回、第 7 回～第 11 回は授業の概要を示したもので、演習の順番は変更される場合があります。
* 到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。